

3 田村市長任期の折り返しを迎えて  
4 おひさまドーム OPEN  
6 **特集** challenger  
「3年間で培った絆で挑む、  
インターハイ出場の道」  
12 海を越えて 英語指導助手ペンリレー  
15 地域おこし協力隊奮闘記  
16 田村市の文化財「神木」  
19 ほっとニュース  
24 船高便り  
26 ほげんだより  
28 暮らしの情報案内板  
34 各施設の催しなど

市の募集・申請に関する  
各記事の共通事項

☎問い合わせ ☑申し込み先  
市への申込・書類提出について明記して  
いないものは、期間中の土・日・祝日  
を除く午前8時30分から午後5時  
15分まで



ENEOSサンフラワーズ所属  
**佐藤 由佳**  
Yuka Sato

挑戦者 -番外編-

**Profile**  
●生まれ/1999年9月18日、大越町  
●身長/172<sup>センチ</sup>  
●ポジション/シューティングガード  
●コートネーム/AKO  
●バスケ歴/大越ミニバス(兄の影響で小1からバスケットを始め)→大越中(3年時:県ジュニアオールスター選出など)→郡山商業高校進学(3年時:インターハイ、ウィンターカップ出場など)→筑波大学(1年時:関東大学選手権大会優勝・新人賞、4年時:同大会で準優勝・敢闘賞など)→ENEOSサンフラワーズ  
●恩師/舞木和弘さん(大越ミニバス団長)  
理由:一からバスケットを教えてくれた。舞木さんの基礎練習、バスケットの考え方がなければ今はなかった。  
●好きな食べ物/ヨーグルト  
●座右の銘/挑戦することで初めて見えてくる世界がある

ENEOS Sunflowers

国内女子バスケの最高峰で得た経験とは

**大**越町出身の佐藤由佳さんは、2022年4月から女子バスケットボールチームENEOSサンフラワーズ(以下、ENEOS)でバスケットボール選手として活躍しています。チームは、第24回Wリーグ優勝(4年ぶり23回目※日本リーグを含む)と2022-23シーズン二冠(Wリーグ・皇后杯)を達成し、熱い戦いを見せてくれました。バスケットボール選手の世界に挑戦し、初シーズンを終えた今、佐藤選手が思うこととは一。



写真提供:  
ENEOSサンフラワーズ

シーズン1年目を振り返って

ENEOSに入団し、チームはシーズン二冠を達成し、貴重な経験を積みました。それと同時に、入団してこの1年は環境の変化に苦勞し、バスケットを辞めたいと思うこともありましたが、しかし「自分だけがつらいわけではない」と自分に言い聞かせ、奮い立させてやってきました。この1年は「人として成長できた」「乗り越えられてよかった」と感じられた初シーズンでした。

特に印象に残っている試合は、レギュラーシーズン第9・10戦の東京羽田ヴィッキーズ戦です。調子が落ち始めていながらも、チームに慣れて必死に食らいついている時期でした。その試合ではいろいろなことが吹っ切れて、いいプレーができて「そこからまた頑張ろう」と思えた試合でした。

私がバスケットで大事にしていることは「頭を使って、意味があるプレーをすること」です。そのためには、とにかく「しゃべること」を意識しています。チームメイトと会話

量を増やし「この選手はどんなプレーが得意で、どんなパスをどの位置に出すとシュートを打ちやすいか」など、相手を理解することで得点につなげていきます。

来シーズンは、自分自身の課題にしっかり向き合い、もっと自分を表現していきたいと思えます。自分の殻を破ることでまた別の世界を見ていきたいです。そして、ENEOSの一員として、見ている人を勇気づけられる活動をしていきたいので、ぜひ試合を見てくれたらうれしいです。



大越ミニバスに凱旋

白石高司 田村市長  
田村市長任期の折り返しを迎えて

「誰もが笑顔になれる  
田村市の実現」への挑戦

日ごろより、市政各般にわたりご支援とご協力を賜り深く感謝申し上げます。  
私が市長職を務めさせていただいてから2年が経過し、早くも任期の折り返しを迎えました。この間、「誰もが笑顔になれる田村市の実現」に向けて、以下の6つの基本政策の実現を目指して取り組みを推進してまいりました。その取り組み状況をお伝えします。



6つの基本政策

※取り組みの一部を紹介します。

1. 防災対策の充実  
(新型コロナ・地震・台風など)

- ◆新型コロナウイルス感染症対策およびワクチン接種の実施
- ◆生活安全課内に危機管理部門を設置
- ◆総合防災訓練を「見せる訓練」から「参加・体験型」へ大幅見直し
- ◆県内で初となる市民向け避難所宿泊体験を実施



2. 子育て支援、教育環境の拡充

- ◆幼稚園・保育所給食費無償化の実施(私立の幼稚園・保育所:月額4,800円を上限に助成)
- ◆屋内こども遊び場「おひさまドーム」の開所および運営
- ◆複式学級の解消(船引地域小学校の統合)
- ◆学力向上支援事業の実施(東大10人構想)



3. 豊かに生活できるための政策

- ◆「たむらのエゴマ油」の地理的表示(GI)保護制度に登録
- ◆農産物を活用した6次化の創出に向けた移住人材確保事業の実施
- ◆田村市公式オンラインショップの開設
- ◆エコノミックガーデニング事業の推進
- ◆桜総選挙を実施し、田村の美桜88景を選定
- ◆田村らくらくタクシーの運行開始



4. 質の高い医療と福祉の充実

- ◆新市民病院建設事業を推進し、新病院を核とした医療提供体制の充実
- ◆健康寿命延伸に向けた健康づくり事業の実施
- ◆高齢者健康長寿サポート事業の実施



5. 職員とのより良い市役所づくり

- ◆市長と職員との意見交換会の実施(計48回実施)
- ◆副市長と職員との意見交換会の実施(計2回実施)



6. 市民の声を聴く部門の新設

- ◆市民の声の受け皿として市民のポストを設置(市内12カ所)
- ◆総務課内秘書広報係内に広聴部門を設置
- ◆運動サロン内での意見交換会の実施



掲げた6つの基本政策は、緒に就いたところであり未だ道半ば、これからが最も大切です。今後も、市長就任時の初心を忘れることなく、「誰もが笑顔になれる田村市の実現」に挑戦してまいります。新型コロナウイルス感染症によって長らく市政、地域や個人の活動が制約され、地域経済にも大きな影響が生じましたが、安心して暮らせる日常を取り戻すための各種事業の推進に、引き続き全力投球で取り組んでまいります。市民の皆さん、市政に対するなお一層のご理解・ご協力、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。